

「ハミダシ情報」OB四連前の七月十五日の練習後、「庄や」にてボンステップ二五・〇cm E E Eの靴が急に古いのと取り変わった方、同じブランド愛好者玉崎(二七)まで。新品と交換します。

村長さんも、青年団も楽しみに待っている 館岩村、特ステ(九月三十日)のこと

——あの岩淵さんも岩手県から特別参加——
帰りは、紅葉の下、露天風呂、牧場のバーベキューも!

担当マネージャー 穎原信二郎(四二)

この秋の盛り沢山のステージ中、最初のイベント、福島県・館岩村教育委員会主催「音楽と芸能の夕べ」出演は、温泉と豪華宴会付きの特ステです。定期的に観光シーズンにかかっており、土曜日という日もあつて、往路の交通に若干苦労すると思いますが、それを除けば、演奏曲も肩の凝らないものばかりです。あの岩淵靖宏君(五八)も岩手県から司会者として参加しますので、間違いなく楽しい特ステになりそうですので、奮ってご参加ください。ご家族連

れも大いに歓迎いたします。打上げの宴会も楽しみですが、つぎの日も近くの観光地を十分楽しめたい。今から計画しておいてください。(但しこの分は自己負担です。)

詳細は左記の通り。九月十日現在の参加予定者は別表の通りですが、そのほかの方で参加できる方は、各パートリーダー又は穎原までご連絡ください。

音楽と芸能の夕べ

■日時 平成元年9月30日(土)午後7時~

■会場 館岩村中学校体育館

■プログラム

- 第一部 ピアノ独奏 佐藤 浩子
ソプラノ独唱 福井 千恵
バリトン独唱 山本 健二
(30分予定)
お神楽(かぐら) 館岩村地元の方々
(10分予定)
- 第二部 男声合唱 稲門グリーンクラブ
指揮 川元 啓司(56)
司会 岩淵 靖宏(58)
(40分予定)
- 第三部 民謡と踊り 地元の方々
(40分予定)

■主催 館岩村教育委員会
■連絡 福島県南会津郡館岩村松戸ヶ原
館岩村教育委員会 星 広政氏
☎0241-78-2111

稲グリ演奏曲目

- ソーラン節
 - 最上川舟唄
 - 斎太郎節
 - 輝く太陽
 - 紺碧の空
 - 雪の降る街を
 - 時計台の鐘
 - 君といつまでも
 - 見上げてごらん夜の星を
 - 水戸黄門
 - ふるさと
 - 遙かな友に他
- (順不同)
(稲グリ・ユニフォーム着用)

参加予定メンバー

《T₁》長尾(24)、内田(27)※、石原(35)※、長沢(36)、堀内(37)、小俣(38)※、清水(38)、穎原(42)※、佐々木(42)、村上(44)、安斎(47)、安宅(57)

《T₂》中岡(12)、中野(27)、福井(29)、阿部(30)、山本(31)、飯沢(32)、遠藤(37)、加藤(37)、関口(37)、正木(42)、土屋(44)、加藤(56)

《B₁》渡辺(16)、玉崎(27)、山本(27)、志賀(29)、茨木(35)、鹿(38)、児玉(38)、吉田(42)、川元(56)、岩淵(58)

《B₂》永杉(28)、田中(32)、宮地(35)、浦野(36)、辻田(37)、篠(54)、福島(55)、阿部(57)、佐々木(59) (※=同伴婦人+楢木夫人)

(9月10日現在 メンバー計43名+同行6名)

スケジュール等

- 9/30(土) 12時30分 集合 東武浅草駅ホーム上
各自、野岩線・会津高原駅までのキップを買って入場、座席確保のため並ぶ。
13時20分発 快速会津高原行きに乗車。
(演奏会前に付き車内禁酒)
16時38分 会津高原着
主催者手配のバスで会場へ
17時20分頃 会場着 休憩、ステージ練習
19時00分 開演
20時30分頃 稲グリ終演後宿舎へ
①入浴、打上げ宴会
- 10/1(日) 宿舎にて朝食後自由解散
(帰京、観光等、コースにより人数がまとまればバスも出ます。タクシーは駅まで約¥4,000、4人で乗れば一人¥1,000電車は始発なので座れる。)
- 参加費用 宿泊費一人5,000円(宴会費は地元負担)
交通費自己負担 往復 約5,000円
- 宴会・宿泊 メンバー 館岩村老人センター
家族 近くの民宿(素泊り)
(宴会、次の日の朝食はメンバーと一緒に)

特ステ第二弾 「岸 洋子リサイタル」のこと

館岩村特ステに引き続き、左記のように特ステ出演がある。これは、B₂武藤辰彦さん(四四)・読売新聞文化部からの紹介で実現したもので、稲グリが岸洋子さんのバックコーラスを勤めるのはこれで二度目。

二日連続の出演で、メンバー五十名という条件なので、第一日目の土曜日は現役の応援を依頼している。二日目は「早大校友大会特ステ」終了後、直ちに「ゆうぼう」と「へ」駆けつけることとなる。スケジュール等詳細は追って。

■日時 十月二十一日(土) 午後六時半開演
二十二日(日) 午後三時開演

■会場 五反田ゆうぼうと

- 稲グリバックコーラス曲
① 愛の讃歌
② チェイサー
③ 希望 (幕上げの曲?)
 - 構成・演出 和山 誠
■音 監 督 佐山 雅弘
■舞台監督 東 一彦
■制作 岸 音 楽 事務所
■後 援 キングレコード
■太田良紀
- なお、切符ご希望の方は、いお席を安く用意するので、お申し出ください。
(担当 穎原)



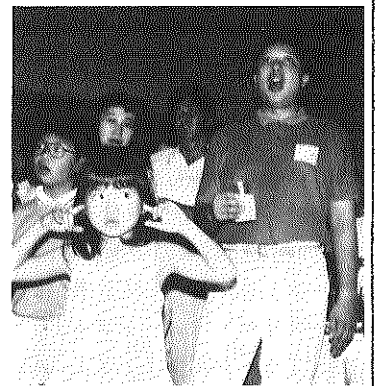
寄稿

エール交歓

T. 中岡 敏雄(一一二)

東西四大学OB合唱演奏会がや
つと終わって緊張から解きほぐさ
れた。本番を迎える迄は一体どう
なるかと危惧していたが、いざス
テージに上れば堀さんの棒に操ら
れ、ハインのキビキビした演奏リ
ズムに乗せられて「ウエストサイ
ド」の激しい流れに身を任せ、終
曲の終わるまでは無我夢中であっ
た。我々にとつてこの様な曲は勿
論初めてであるし、これほど記憶
力低下に泣かされたことも今迄に
なかった。然し一人では駄目でも
皆と歌えば何とかごまかせる処が
不思議であり、言わば他力本番の
いい加減ということをお白状せねば

ならない。満席の聴衆が稲グリの
演奏をどのように聴いて呉れたの
か判らないが、少なくとも我々と
しては精一杯やり遂げたというか
逃げ切ったという感慨が心に残っ
た。万雷の拍手が単なる儀式のみ
でないことを願うが、一方で私は
自らの限界を知ったというのが偽
らざる実感である。
さて、前置きが長くなつたが、
本題の「エール交歓」に話を進め
よう。毎度四連ジョイントの際に
は先ず最初に必ず之が行われる。
そこでこのエールとは何かという
ことであるが、恥ずかし乍ら私は
この言葉をジンジャエールと同じ



▲四連打上げハミダシ写真。堀内さん(55)熱唱の巻。

りました。転移癌というのは手のほ
どこしやうがないらしく、運命に從
うほはありませんでした。
ホスピスには一週間に一回、交り
の会というのがありまして、音大の
先生やら、コウノクたるお声の牧師
様やら、コーラスの方々に来て下さ
って、讚美歌を唄つてお茶を頂きま
す。彼は自分の好きな讚美歌だとい
揮者よろしく手を振つておりました。
もう残り少ない命なのに、このよう
な機会に巡り会えた事に私の胸は熱
くなるような喜びを感じました。
痛みをとる事を第一にして下さい
ましたので、そんなに苦しまず安ら
かな死でございました。ホスピスと
いう特殊な雰囲気の中で、静かで暖
かく見守られ乍ら最後を過ごせた事
は何よりの幸せであつたと存じます
生前の御交誼を厚く御礼申し
上げます
まだノ、お暑さもつづく事と存じ
ますが何卒御身体大切になさつて下
さいませ
八月十六日
長尾 要様
小笠原裕子

大先輩・小笠原一也さん(一九)逝く



■二年前の四連打上げで。小笠原さん(右)と長尾さん(二四)

昭和六十二年七月、大阪でのOB
四連の時、控室で戦中最後の指揮者
・小笠原さんの棒で「希望の島」を
歌つたことを覚えておられる方も多
いと思いますが、その小笠原さんが
亡くなられました。奥様からのお手
紙をご了解を得て、メンバー全員へ
のお手紙として載せてもらふこと
にしました。誠に残念ですが、小笠原
さんのご冥福を心からお祈りしたい
と思います。(長尾 要)

お暑さ酷しい毎日でございますが
お障りもなくお過ごしでございます
か。いつもお力づけ、お励ましのお
便りを頂いております。夫一也、
去る七月二十二日、淀川キリスト教
病院のホスピスにて六十九才の生涯
を閉じました。
三年半前に下咽頭癌の手術を致し
ましたのが肺へ転移したものと分か

現役諸君へ

現役担当マネ・佐々木 豊(五九)

六泊七日の夏合宿も無事？終わり
九月十日には熱海でかの道遠祭特ス
テ、来月には岸洋子リサイタルで稲
グリとも合流するなど、相変わらず
君達は忙しそうだ。

漏れ聞くとところによると、今年の
定演の曲目は、ヨハン・シュトラウ
ス、メリー・ポピンズ、多田武彦。
今から定演が待ち遠しい。
そして、何より嬉しいのは、定演
のもう一ステージが「阿波」である
ということ！これなら話は早い。
OBの練習にも来れたらジャンジャ
ン来てほしい。もちろん「阿波」の
楽譜を持って、そして、現四年生は
来年ソ連と一緒に！これが
今の私の夢だ。

感謝!!
チケット完売

文化庁芸術祭参加・有楽町朝日ホール5周年記念

歌曲王の姿を歌と語りで描く

岡村喬生「シューベルト物語」

10月18日(水) 18時30分開演

有楽町朝日ホール(マリオン11階)

前売券3000円 当日券3500円

出演: 岡村喬生 ピアノ: 平山誠也

主催: 朝日新聞社 稲グリ担当: 清水実(38)



「ハミダシ情報」稲グリ新聞読者が楽しみにしている「ハミダシ情報」も今回は行事少なくて切れ。特ダネ提供者には「庄や」でヒール一本オゴります。(編集局)

〈OB便り〉

信州の空から

稲グリ諸兄へコンニチハ!

B₂ 中越 慎介(四三)

先日、頼原氏より入電、「あなた長野で合唱団作って頑張ってるよだが、近況を伝えて欲しい。ついでに注文のOB四連テープを聴いてその感想も書いて欲しい。九月九日必着。」とのこと。しかし、テープが着いたのが七日の夕方。気がせき中、車に持ち込んでの拝聴となりました。なんと我が稲グリの一ウエストサイド・ストリー「には正直言って「なんだこれは!」の一言です。どうも文化会館で実際に演奏を見聴きしなければウンヌンできるシロモノではないですね。ただ終盤の「ワセダ、ワセダ」には隣の席で聴いていた女房が目丸くして拍手をしておりました。ワグネルのシューベルトが相変わらず素晴らしいですね。もし私の小学校二年の息子が将来、首尾よく早稲田が慶応あたりを受験できるようになったら、「慶応へ行つてシューベルトを歌いなさい」と言つてしま

二、三の合唱団から誘いもあつたのですが、混声合唱団に入る気もせず、どうせ忙しい中、時間を割くのなら男声合唱をといて、三年程前から自分達で人集めを始めて団を創設し、現在十七名のメンバーとなつてなんとか男声合唱の響きを出せるくらいまでには育っています。福井会長にお電話をし、「時計台の鐘」、「ラプス・オールド・スウィート・ソング」等現役の頃歌った曲で手元に無い楽譜を送つて頂いたりしての懸命の団活動です。

指揮者の小巻君は私より十歳程年下で、学生時代、藤沢男声合唱団で指揮をしていたという優秀な人材です。駒不足の中、組曲「雨」柳河風俗詩等を仕上げ、レパートリーとしていきます。団員の中には学生時代男声合唱を経験した人が多く、日大グリ、上智大グリ、東北大、当地信州大グリ等のOBが集まっています。職業では、おまんじゅう屋さん、本屋さん、鉄砲屋さん、NTTさん、校長先生等々で休憩時間の話題はアレコレ入り乱れて収集がつかない程楽しいものです。遅れましたが、団名を「オルフェオン男声合唱団」と申しまして今までに四回程ステージを持ちました。将来は定期演奏会を持てるような合唱団に育てようと小巻君と意気込んでいますので、まだまだ年月がかりそうです。

稲グリ諸兄、人材の紹介、アドバンスなどありましたらご一報下さい。お待ちしております。
(株)南信電業舎・営業部勤務
住所 三三八〇 長野市西長野
一〇三〇一六
☎〇二六二一三五二八(一三)



「オルフェオン男声合唱団」で歌う筆者。前列右から三人目。信濃毎日新聞でも紹介されている。

東急文化村がオープンして、新聞でもオーチャードホールについての記事が目立つ昨今。四連のプロに、来年の定演はここで、と載せたが果たしてキープ出来るか? 下は東京都合唱連盟のニュースから転載。

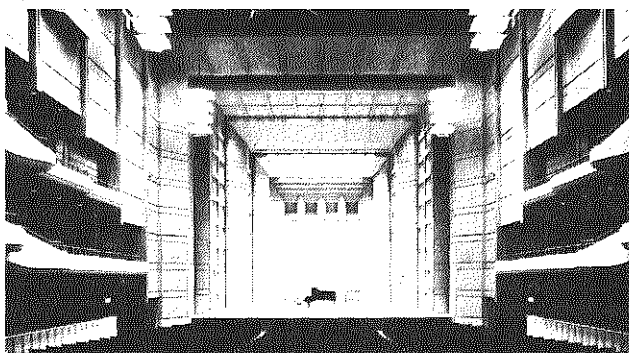
特集 Newホール紹介

渋谷に「Bunkamura」ついに登場

渋谷が変わる/音楽シーンが変わる/今、最も注文されているこの「Bunkamura」。今回は、オープン前の8月中旬、東急文化村開業準備室を訪れ、お話しを伺ってきました。

質の高い文化の創造を目指して

このBunkamuraは単なる貸ホールではありません。音楽、演劇、美術などの広いジャンルで楽しめる複合文化施設です。客席数2150席の大ホール「オーチャードホール」と747席の中ホール「シアタークーン」を中心として、多目的アールスペース「ザ・ミュージアム」、ミニシアター「ル・シネマ1・2」、レコーディングスタジオ「東急ファン」などが設けられています。



「世界第一級の音」がメインコンセプト

私たちにあって一番気になるのが、「オーチャードホール」です。この「オーチャードホール」は、「世界第一級の音」をメインコンセプトにしてつくられた国内最大規模のシューボックス型のホールです。シューボックス型というのは、垂直な側壁と平らな天井からなる長方形のもので、豊かな反響が得られます。さらに三重構造からなる巨大な音響シェルターがこのホールを特徴づけています。重量120トンの音響シェルターは、移動可能であり、オペラやバレエの時には後ろに下がって、舞台を広げます。幅広いジャンルの音楽に対応するために工夫されているわけです。

ハード・ソフト両面の充実を

Bunkamuraでは「プロデューサーズ・オフィス」の制度をつくりました。「プロデューサーズ・オフィス」は各界の第一人者、八人で構成され、企画・運営をまかされています。オーチャードホールを担当しているのは、岩城宏之、富田勲、前田憲男、佐藤信の四氏となっています。また、オーチャードホールは、音楽ホールとしての機能をさらに発揮するために、フランチャイズ・オーケストラとして東京フィルハーモニー交響楽団を迎えました。フランチャイズ契約は、日本ではこれまでに見られないことで、ソフトの充実に一役買っています。

編集後記

残暑の厳しさもものともせず、稲グリ活動が始まった中、稲グリ新聞第六十八号をお届けします。活動日程を見ると、頭がいながらるほど、これまでにない目まぐるしさです。体だけは大切に、諸兄のご健闘お祈りいたします。(E)

九日(土)深夜、新聞作業を終えて帰宅後、突然鼻血が! 子供のころから鼻血なんてほとんど出た記憶がないのに、これは吉兆かそれとも? いずれにしても新聞印刷用紙を血染めにしなかつたのは何よりでした。(S)

九月四日(月)、新宿ワシントンホテルの一三三三間堂で、第七回OB四連マネージャーの会計突合せ兼打上げ会が開かれました。出席十名。会計的に見通しもよいようなので、全員すっきり良い気持ちで飲んでしまいましたので、今号では記事になりません。次号で詳しい会計報告も出来る見込みです。それではまた頑張りましょう。(E)